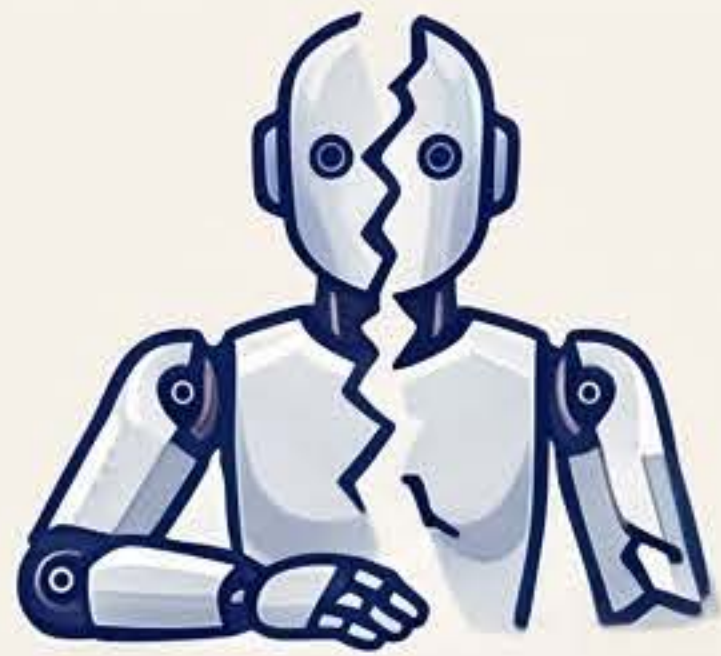


ヒューマノイド時代に日本が勝つための戦略

Blueprint

日本の勝算と競争環境の現実

完成機の世界独占は勝率
15~25%



汎用機の量産・販売台数競争

キーレイヤー獲得なら勝率

55~70%



高付加価値領域での勝利



ナブテスコが関節向け精密減速機で
世界シェア約60%を保持

関節数が多いヒューマノイドにおいて
日本の精密駆動系は決定的な強みとなる。



米国の
「巨額資本」「価格破壊」



中国の

VS



日本は
「品質と信頼性」



実稼働率や保守性を含めた総所有コスト (TCO) の
低さで差別化する。

勝利を決定づける「Japan Inside」4大レイヤー

1. 精密ハードウェア層 (減速機・アクチュエータ・センサー)



世界中の完成機に組み込まれる不可欠な基幹部品
シェアを維持・拡大する。

2. 実世界データ層 (製造・物流・介護の高品質な現場データ)



日本の現場が持つ非公開の力覚・時系列データを
Physical AIの学習基盤にする。

3. 現場統合 (SI)



事故を防ぎ高稼働率を生む運用ノウハウと
安全認証をパッケージ化して輸出する。

4. 安全・認証標準 (ISO/国際規格)

